

資料番号		-01-001-01	-01-007-01	-01-008-01	-01-021-01	-02-001-01
調査年月日		2012/9/4	2013/6/17	2013/6/18	2013/6/17	2013/6/17
調査者		生谷 吉男	生谷 吉男	生谷 吉男	生谷 吉男	生谷 吉男
名称		染色地 捺染綿布	染色地 捺染綿布	染色地 捺染綿布	染色地 捺染綿布	染色地 捺染綿布
糸	素材	木綿	木綿	木綿	木綿	木綿繊維
	タテ	木綿	木綿	木綿	木綿	木綿
	ヌキ	木綿	木綿	木綿	木綿	木綿
色	地色	白色地にプリント 赤、緑、黒(緑地に赤 オーバープリント99)	黒、グレイ、青	赤地色 捺染柄 9色	黒、グレイ、青	赤地色にプリント
	染料・顔料		顔料			
	タテ				捺染柄	
	ヌキ					
加工技法	織技法	平織、金巾	木綿の平織 細い糸 で構成されている	木綿の綾織	木綿の平織 細い 糸で構成されてい る	木綿平織
	染技法	捺染、顔料、赤、黒、 グリーン、白地 ローラー捺染ではな いか、しかし柄合わ せ不良、模様も手抜 きではないか	ローラー捺染 生地 の斜行による歪みが 多い	ローラー捺染 顔料又 は塩基性染料タンニ ン媒染	ローラー捺染 生 地の斜行による歪 みが多い	顔料によるオー バープリント ロー ラー捺染と推定。 赤、黄色、黒に3色 顔料によるプリント
	その他		ロールずれによる形 ずれが見られる		ロールずれによる 形ずれが見られる	表面平滑の為に ペーパーカレンダー 掛け
文様		花柄のスカーフ用柄	黒を基調とした格子 状 スカーフ柄	スカーフ柄 周囲に花 柄多く配置	花柄 黒を基調とし た格子状 スカーフ 柄	ペズリー柄をスカー フ配置にしてある
形状		35×31 cm	裂地標本 31.5× 35.0cm 元布の4分の 1	裂地標本 31.5× 35.0cm 元布の4分の1	裂地標本 31.5× 35.0cm 元布の4分 の1	裂地標本 31× 35cm 元布の4分の 1
用途		スカーフ	スカーフ	スカーフ	スカーフ	スカーフ
特記事項						
調査所見						
製作地						
製作年						
織名称						
法量	縦					
	横					
	織耳					
備考						1910年鶴巻鶴一教 授寄贈品

資料番号		-02-002-01	-03-001-01	-03-009-01	-03-022-01
調査年月日		2012/9/4	2012/11/4	2013/6/25	2013/9/20
調査者		生谷 吉男	生谷 吉男	生谷 吉男	生谷 吉男
名称		染色地 捺染綿布	染色地 捺染綿布	染色地 捺染綿布	染色地 捺染綿布
糸	素材	木綿繊維	木綿	木綿	木綿
	タテ	木綿	木綿	木綿	木綿
	ヌキ	木綿	木綿	木綿	木綿
色	地色	黒字色に柄色赤、黄、2色	白地色 捺染柄5色 黒、赤、青、緑、グレー	白地色 捺染柄6色	一色紺地捺染柄
	染料・顔料		顔料	顔料	顔料
	タテ				
	ヌキ				
加工技法	織技法	木綿平織	木綿平織	木綿平織 経糸が細い糸で構成されているが緯糸は太い糸、細い糸が混合している。	木綿平織
	染技法	黒染め地色染色(アニリン黒では色少し異なる)後、着色抜染と推定される。地色は分析不能のため判断できず。	ローラー捺染 赤色の枠内部部分はぼかし染になっている。ロール彫刻にてぼかしにしている	ローラー捺染 生地表面にシュライナーかれんだーにて光沢を出している	ローラー捺染 本来多色の捺染柄であり、複数の捺染ロールで準備され、複数の色数の捺染柄であったがそれを紺一色に染める為複数色ロールを使って一色で染め上げたものであり、糸目柄や地色ローズのズレが見られる(一色では不必要)
	その他			織細な線にて格子が出来ている。捺染糊が重なって混合色(彩度が落ちる)となっている部分もある	
文様		水玉に線組合せ幾何模様		花柄 スカーフ用柄	花柄、線柄
形状		三角形 底辺27X高さ28の三角形	裂地標本 31.5×35.0cm 元布の4分の1	裂地標本 31.5×35.0cm 元布の4分の1	裂地標本 31.5×35.0cm 元布の4分の1
用途		スカーフ	スカーフ	スカーフ	スカーフ
特記事項		平地、経4枚綾・緯5枚濡子地紋、紋棠門不明、紋丈25.5cm、二種の地経と二種の地経を交代させて用い、赤×赤、白×赤、赤×黄土、白×黄土、の四種の地合と白×黄土、赤×黄土、白×赤、及びその細織違いで地紋6種を作り出している。	平地、緯浮地紋、絵緯(全越)緯8枚朱子文 錦、紋棠門、紋丈不明		地経・地緯による浮紋と綾地紋で著した地紋(緞子)織物。 紋丈:62mm 紋カマ:33mm
調査所見					AN25-2-02-008、AN25-2-04-005、AN25-2-07-002は、地緯色違いの同裂又AN25-2-03-003は同裂
製作地					
製作年					
織名称					
法量	縦		147	240	102
	横		519	510	55
	織耳				
備考		付札、表)abzarine Red 裏)) Bootesal Aniline sodo -Fabrik handur Jsfober a Rein			

資料番号		-03-023-01	-04-001-01	-04-006-01	-04-015-01
調査年月日		2013/8/20	2013/625	2013/3/19	2013/7/23
調査者		生谷 吉男	生谷 吉男	生谷 吉男	生谷 吉男
名称		染色地 捺染綿布	染色地 捺染綿布	染色地 捺染綿布	染色地 捺染綿布
糸	素材	木綿	木綿	木綿	木綿
	タテ	木綿	木綿	木綿	木綿
	ヌキ	木綿	木綿	木綿	木綿
色	地色	赤地色 捺染柄茶色 3色(黒、赤、黄色)	白地色(全体にグレー汚れ)捺染6色(黒、赤、青、緑、ベージュ)	白地色 捺染柄焦茶1色	白地色 捺染柄茶色
	染料・顔料	顔料		顔料	顔料
	タテ				
	ヌキ				
加工技法	織技法	木綿平織(キャリコ)	木綿平織	木綿の平織 細い糸で構成されているが太細が多くみられる。	木綿の平織
	染技法	ローラー捺染と推定、黒は顔料 特に黒色はローラーの繊細な彫刻による細かい粒状の捺染技法推定 前もって生地黄色の浸染、またはパッドする。ナフトールAS類で下漬ほーパッドー乾燥後、ローラー捺染にて黒の顔料、濃淡の赤のナフトールソルト類を捺印している。この頃は日本の染工場ではナフトールソルトを捺染工場でジアゾ化溶解して糊料に混合して捺染糊としてしようしていた。	ローラー捺染、赤の花やグリースの部分はボカシに染まっているがローラーの彫刻の際に彫刻を浅くした部分はローレットが浅く、糊料の持ちが少なくなっており、深い部分は糊料が多くなって完全に染まる。	ローラー捺染 焦茶一色の顔料捺染 全体に色のいらつき模様があり、彫刻の深さによるむら状の模様になっている	ローラー捺染 顔料 繊細な線が表現しているが細い線の彫刻を観察すると線が断絶したり、太線が出来ている。彫刻が粗末!
	その他				仕上げ加工では生地表面にペーシュライナー加工(光沢加工)が施されている。
文様		ベズリー模様 中に小さい黒色点を多く配置	花柄と幾何模様 スカーフ用柄	花柄と幾何模様 スカーフ用柄	幾何模様
形状		裂地標本 32×35cm 元布の4分の1	裂地標本 17×75cm(生地幅×17cm)	裂地標本 元布の4分の1	裂地標本 元布の4分の1
用途		スカーフ	スカーフ	スカーフ	スカーフ
特記事項					
調査所見			花柄の半エッチング ローレットの酸処理の途中で核部分をニス で埋めて型に含まれる糊料を減らしてボカシにする。		
製作地					
製作年					
織名称					
法量	縦		裂地標本 17×75cm(生地幅×17cm)	315	320
	横		裂地標本 34×8.0 cm	350	354
	織耳				
備考					

資料番号		-04-020-01	-05-001-01	-05-004-01	-05-031-01
調査年月日		2013/7/23	2012/9/4	2012/9/4	2012/11/20
調査者		生谷 吉男	生谷 吉男	生谷 吉男	生谷 吉男
名称		染色地 捺染綿布	染色地 捺染綿布	染色地 捺染綿布	染色 捺染綿布
糸	素材	木綿	木綿	木綿	木綿
	タテ	木綿			
	ヌキ	木綿			
色	地色	白地色 捺染柄 黒色	白地に濃淡紫、 ダーク黄、濃淡緑	白地に茶色と黒色、赤色三 色で構成	白地色 捺染柄 赤色、 青、チャコールグレーイ 色
	染料・顔料	顔料		顔料	顔料
	タテ				
	ヌキ				
加工技法	織技法	木綿薄地の平織	綾織、二綾	木綿の平織 薄地生地	木綿の平織 経糸細い 糸、緯糸太い糸で構成さ れている。3本の糸綾状 に製織 裏面を起毛
	染技法	ローラー捺染 顔料 繊細な線 が表現されているが細い線の彫 刻の限界に挑戦している。細さ の限界線の先に注目	ローラー仕上げ捺 染と推定 色料は 顔料(検鏡による) 仕上げ加工として シュライナー加工 による表面艶出し 加工実施	機械捺染と推定、小さな雲 柄が無数にあってその雲柄 に0.1～2mmのまる模様が無 数にあり、繊細な機械捺染 の2度染で茶色の雲柄を捺 染した上に黒赤の2色を オーバー捺染している。色 料は顔料による。先の点状 捺染の技術は良、後捺染は 可	ローラー捺染 顔料使い 裏面に1mm角の細かい 線が斜めに捺染
	その他	仕上げ加工では生地表面に ペーパーカレンダーにより表面 が平らになっており、光沢加工 (物理加工)がされている。			
文様		幾何模様 繊細な線描きの図柄 で一部分で彫刻の限界が試さ れている	花柄	幾何模様 スカート柄の縁 取り	チェック柄に少々変形
形状		裂地標本 元布の4分の1	裂地標本 元布の 4分の1	裂地標本 元布の4分の1	裂地標本 元布の4分 の1
用途		スカーフ	スカーフ、壁布	スカーフ、壁布	スカーフ
特記事項					
調査所見			本品は捺染なるも スクリーン捺染に よりローラー捺染 によるものと推定	本品はローラー捺染による ものと推定	
製作地					
製作年					
織名称					
法量	縦	320	320	320	295
	横	350	350	345	350
	織耳				
備考					

資料番号		-05-032-01	-05-032-01	-05-039-01	-05-047-01
調査年月日		2012/11/20	2017/2/21	2017/2/21	2013/7/9
調査者		生谷 吉男	佐藤 忠孝	佐藤 忠孝	生谷 吉男
名称		染色 捺染綿布	染色標本(捺染模様)木綿手巾壘	染色標本(捺染模様)木綿手巾壘	染色 捺染綿布
糸	素材	木綿	綿	綿	木綿
	タテ	木綿	74	74	木綿
	ヌキ	木綿	54	54	木綿
色	地色	赤地色 捺染柄 青、白抜き	3色 (赤、紺、白)	5色 (赤、青、黄、白、黒)	黒地色 花柄6色
	染料・顔料	顔料			顔料
	タテ				
	ヌキ				
加工技法	織技法	木綿の平織 太い糸、細い糸混在、太細に撚糸部が混在。	平織	平織	木綿の平織 細い糸で構成されている(綾になっている)
	染技法	ローラー捺染 顔料 抜染によるものハレーションが出ている。織細な線、(細い小さな円の部分)	「返し」ローラ捺染	着色抜染、ローラー捺染	ローラー捺染 顔料 抜染法による。形際にハレーションがみられる。抜染の裏通りに注意
	その他				カレンダーによるペーパーカレンダーによる表面加工されている
文様		チェック柄スカーフ柄	格子のパネル柄		花柄のスカーフ柄連続
形状		裂地標本 元布の4分の1			裂地標本 元布の4分の1
用途		スカーフ	手巾	手巾	スカーフ
特記事項			地赤に表裏の濃度差があることから、直接捺染と思われるが、「紺」「白」との接点にシャープさを欠き、「紺」の型際にブリードが認められる。これは差し色の糊に過剰な防染糊が含有されていた場合に起こりがちな現象である。「紺」の中の白は生地白と思われる。「赤」と「紺」は通常の直接捺染のような「型合せ」が行はれたが、差し色に含まれる防染剤の影響で重色による異色が生じなかったと思われる。以上から直接捺染と「返し」(注釈4)の併用と考えられる。		
調査所見				地色の黒色に表裏の濃度差がなく、「抜染」と考えられる。抜染面積が大きいのが、均染性に優れている。	
製作地					
製作年					
織名称					
法量	縦	300	350	270	320
	横	350	300	330	340
	織耳				
備考					

資料番号		-06-009-01	-06-012-01	-06-018-01	-06-024-01
調査年月日		2012/11/20	2017/2/21	2013/7/9	2013/7/16
調査者		生谷 吉男	佐藤 忠孝	生谷 吉男	生谷 吉男
名称		染色 捺染綿布	染色標本(捺染模様)木綿手巾壘	染色 捺染綿布	染色 捺染綿布
糸	素材	木綿 厚手生地	綿	木綿	木綿
	タテ	木綿	74	木綿	木綿
	ヌキ	木綿	54	木綿	木綿
色	地色	白地色 捺染柄 黒2色	3色(焦茶、茶、地紋茶)	白地色 捺染柄茶色 3色	白地色 捺染の挿し色は青緑色 挿し色 グリーン1色
	染料・顔料	顔料		顔料	顔料
	タテ				
	ヌキ				
加工技法	織技法	木綿の平織 経糸細い目の糸、緯糸は太めの糸で構成されている。	平織	木綿の平織 薄手の生地で細い糸で構成されている。	木綿の平織 細い糸で構成されている。
	染技法	ローラー捺染 黒顔料使い 生地裏面に黒点 1mmの縦緯に一面の黒点が規則正しく並んでいる	ローラー捺染	ローラー捺染 顔料 繊細な線	ローラー捺染 顔料使用(黒、青緑) 繊細な線、(細い小さな円の部分)
	その他				
文様		チェック変形		幾何模様 に格子柄	幾何模様 中に小さい黄色円を多く配置
形状		裂地標本 元布の4分の1		裂地標本 元布の4分の1	裂地標本 元布の4分の1
用途		テーブルクロス	手巾	スカーフ	スカーフ
特記事項					
調査所見		表裏にペーパーカレンダー処理により光沢と毛伏せ	地紋の彫刻が素晴らしい。不規則な割り付けにありがちな粗密の偏りがなく、又レピート性や方向性も見受けられず、非常に高度な彫刻技法である。		水浸みで黒色顔料が染み出ている。
製作地					
製作年					
織名称					
法量	縦	340		304	320
	横	320		350	350
	織耳				
備考					

資料番号		-06-026-01	-06-032-01	-07-002-01	-07-003-01	-07-009-01
調査年月日		2013/7/16	2013/7/16	2017/2/28	2012/7/31	2012/8/7
調査者		生谷 吉男	生谷 吉男	佐藤 忠孝	生谷 吉男	生谷 吉男
名称		染色 捺染綿布	染色 捺染綿布	染色標本(捺染模様 木綿手巾類)	染色 捺染綿布	染色 捺染綿布
糸	素材	木綿	木綿	綿	木綿	木綿
	タテ	木綿	木綿	75	木綿	
	ヌキ	木綿	木綿	64	木綿	
色	地色	白地にオーバー捺染 挿し色10色	薄茶地色 捺染柄茶色 さし色 黄、白、中間茶 色3色	2色 (茶、赤)	白地色 捺染柄	クリーム地色の 捺染 グリーン、 赤茶色、薄赤茶 顔料
	染料・顔料	顔料	顔料			顔料
	タテ					
	ヌキ					
加工技法	織技法	木綿の平織 細い糸で 構成されている金巾	木綿の平織 細い糸で 構成されている。	平織	木綿の平織 細い糸 で構成されているが 太細が多く見られる。	太めの木綿平 織。
	染技法	ローラー捺染 顔料 織細な線、地の赤は色 泣きしている。	薄茶地色は浸染 ロー ラー捺染 茶色3色 顔 料 白色は抜染、黄色 は着色抜染 織細な捺 染技法が見られる	ローラー捺染、直接捺 染	ローラー捺染	ローラー捺染。捺 染部分は顔料を 使っている。柄の 周辺に生地耳側 薄い紫の35mm 幅の部分がある。 経糸方向に 続いている。
	その他		仕上にシュライナーカ レンダーにて光沢仕上 げを行っている。シュ ライナー加工の表面凸 凹が見られる。			
文様		ペズリーと花柄	幾何模様 中に小さい 黄色円を多く配置	パネル柄	花柄変形リボン 周 囲 中は点を8.5mm 司法で数多く配置	花柄 広い送り がある
形状		裂地標本 元布の4分の1	裂地標本 元布の4分 の1		裂地標本 元布の4分 の1	裂地標本 元布 の4分の1
用途		スカーフ	スカーフ	手巾	スカーフ	
特記事項				<hr/> 重色が殆どなく、型際 がきわめてシャープ である。「型合わせ」 の難しい柄である が、「型狂い」の欠点 も許容範囲に収まっ ている。素晴らしい捺 染技術である。		
調査所見						
製作地						
製作年						
織名称						
法量	縦	320	320	310	315	400
	横	350	350	350	350	490
	織耳					
備考						

資料番号		-07-010-01	-07-034-01	-08-003-01	-08-011-01	-08-012-01
調査年月日		2012/8/7	2017/2/28	2013/7/9	2013/3/19	2013/3/19
調査者		生谷 吉男	佐藤 忠孝	生谷 吉男	生谷 吉男	生谷 吉男
名称		染色 捺染綿布	染色標本(捺染模様木綿手巾類)	染色 捺染綿布	染色 捺染綿布	染色 捺染綿布
糸	素材	木綿	綿	木綿	木綿	木綿
	タテ		80	木綿	木綿	木綿
	ヌキ		75	木綿	木綿	木綿
色	地色	白地に赤色捺染柄	6色 (紫、青、緑、赤、淡赤、橙)	白地色 捺染柄茶色 指し色黄色1色	黒地色 捺染柄赤、緑、ピンク色 薄ブルー色	黒地色 捺染柄
	染料・顔料			顔料	顔料	顔料
	タテ					
	ヌキ					
加工技法	織技法	平織	綾織	木綿の平織 細かい糸で構成されているが太細が多く見られる。	木綿平織	木綿平織
	染技法	一色の幾何模様捺染	ローラ捺染、直接捺染(一部「返し染法」)	ローラ捺染 顔料 繊細な線(細かい小さな円の部分)	ローラ捺染 地色浸染に対しローラ捺染にて顔料の直接捺染と着色(顔料)抜染による染色	ローラ捺染 顔料白、赤線の一部赤花色部分が抜染されている。赤線部分に抜染のハレーションが見られる。
	その他	シュライナーカレンダー加工(艶出し)				
文様		幾何模様	パネル柄	幾何模様 中に小さい黄色を多く配置		花柄、線柄
形状		裂地標本 元布の4分の1		裂地標本 元布の4分の1	裂地標本 元布の4分の1	裂地標本 元布の4分の1
用途		服地	手巾	スカーフ	スカーフ	スカーフ
特記事項						
調査所見			「緑と橙」「緑と紫」の型際は他色の型際、例えば「紫と橙」に比べると非常にシャープであることから、「返し染法」が適用され、その他は通常のオーバー捺染と思われる。			
製作地						
製作年						
織名称						
法量	縦	770	320	320	315	320
	横	295	330	340	350	350
	織耳					
備考						